

GONTA



開館20周年を迎えて

橿原市昆虫館は平成元年10月にオープンしてから今年で満20歳を迎えました。

近畿地方では数少ない昆虫を身近に感じることのできる施設として、市民はもとより市外からも多くの方々に来館していただいております。平成15年には、奈良県内で唯一の自然史系博物館としての登録を行い、博物館本来の目的を果たすべく、施設の運営を行ってまいりました。

開館以来の長きに亘りご来館頂きました皆様や、館の運営にご協力頂きました昆虫館友の会をはじめ、ボランティア、その他関係者の皆様のサポートにより昆虫館が二十歳を迎えられたことに深く感謝を致します。

開館後の20年間で都市化による環境破壊や温室効果ガスによる地球温暖化など、我々を取り巻く自然環境が大きく様変わりしています。1997年度京都議定書においても、先進国全体における温室効果ガスを1990年に比べ5%削減する目標が明記されました。

私たち人間は、石油や天然ガスなどの限りある資源の恩恵を受け、便利で快適な生活を営んでおりますが、このような生活は地球上の昆虫をはじめとする生物や生態系の犠牲の上に成り立っており、この傾向は近代文明が進歩するほどに大きくなると思います。そのために、私たちの生活も多様化しライフスタイルも変化するなかで、子ども達が自然に触れる機会も次第に少なくなってきています。

このように地球規模の環境問題がクローズアップされるなかで、私たちや、私たちの子どもの世

代、さらにはもっと子孫にいたるまで豊かで美しい自然を継承するために、もう一度環境の問題を考え直さなければならない時が来ています。その意味でも昆虫館は、未来を担う子ども達のみならず、現在社会を支えている大人の世代にとっても、自然環境学習の場として益々重要なポジションに立つことでしょう。

昆虫館は、開館20年を節目として、リニューアル工事により新しく生まれ変わります。環境の変化や生物多様性など、これからの環境教育に欠かす事の出来ない課題に取り組み、生涯学習に大きく寄与することが出来るよう更なる努力をしたいと思います。

昆虫館長 西川明秀



しゅうねん むか 20周年を迎えて

橿原市昆虫館の開館20周年に際し、橿原市昆虫館友の会様、NPO法人やまと自然と虫の会様、虫いっぱい
の里山づくり隊様より、お祝いのメッセージをいただきました。

開館20周年への祝辞

橿原市昆虫館友の会 会長 宮武頼夫

この度は、開館20周年誠にめでたく、心からお祝い申し上げます。友の会は、昨年に10周年を迎え、「10周年だよ TENTUM シ 全員集合！」と題して、TENTUM シをテーマにしました作品展等を開催しました。また発足以来様々な観察会や行事に取り組みました。友の会は昆虫と自然と昆虫館のファンクラブであり、多くの方にご入会頂き、共に地域の昆虫や自然に親しみ楽しんで下さることを願っています。

昆虫館はこれからリニューアルしますが、展示や設備がよくなっても、生涯学習施設であることを考えると、一番大事なことは人と人とのつながりだろうと思います。展示を見た人や行事に参加した人が、また行きたいと思う昆虫館となるように、スタッフは細やかな呼びかけや働きかけをして欲しいと思います。

そのためには、職員数が十分で、勤務条件も恵まれていて、永く楽しく続けられる保証がないといけません。スタッフの後継者を確保するためにも、このことは重要だと思います。できれば館長は専門職で、有能な庶務系の副館長と連携しながら、館の運営をしていくのが理想ではないかと思います。これからは次第にシニア世代の時代に入っていくので、これらシニアの人たちのボランティア活動に期待し、また生き甲斐を育てるための支援活動も必要になってくると思います。

昆虫館と言えども昆虫だけを対象にするのではなく、昆虫が自然生態系の中で色々な生きものとのつながっていることを考えると、鳥や魚や、身近な生きものの専門家もいて、自然史系の博物館に発展できたらと願っています。生態学や環境学の視点からアプローチする研究者も必要でしょう。



▲夏の合宿観察会より

現在の昆虫館は里山の中にあって、まわりに豊かな自然が残った恵まれた環境にあるので、それを生かした環境教育、フィールドワークが可能だと思います。地元の人たちと協力しながら、周りの環境を調査したり整備して、昆虫たちも多く集まる環境づくりが大事かと思います。これらを総合して、フィールドミュージアムとして発展していけたらと願っています。大昔からの歴史を見守ってきた、かけがいのない橿原の自然が損なわれることなく、未来にも存続していくための拠点としての役割もになっていると思います。

未来の昆虫館へ

NPO法人やまと自然と虫の会 理事 伊藤ふくお

ご存知のように、奈良県に自然史系の博物館はありません。北には、奈良公園を中心に古くから人がかかわってきた自然環境が、春日山原生林を含み残っています。また南には、紀伊半島を象徴する山岳地帯が豊かな自然環境を形成しています。以前から生物の豊かな奈良県に、自然史系博物館を県民は切望してきました。丁度その頃、橿原市に墓地と市民が憩える施設の建設計画が持ち上がりました。当初、バラ園や野鳥園の構想があったとも聞いています。インセクトリウム(昆虫展示飼育施設)を備えた博物館相当施設である橿原市昆虫館が、1989年10月にタイ王国より王女をお迎えして開館し、2009年10月で20歳になりました。

橿原市昆虫館が開館した当時、国内では多摩動物公園昆虫園、広島市森林公園こんちゅう館の3館だけが放蝶温室を備えた施設でした。後に関西エリアでは、伊丹市や箕面市に放蝶温室を備えた施設ができたので、当時自然への関心が高かったことがうかがえるでしょう。

橿原市昆虫館設立10年を前に友の会が設立されました。昆虫館を愛してやまない人たちが中心になり、名称は、「橿原市昆虫館友の会」となりました。館の行事をサポートしたり、独自に昆虫の観察会や合宿を開いたり、学芸員や職員と共に、昆虫など小さな生きものたちに新鮮な驚きと不思議さを追求しています。友の会への入会には、何の制約もなく、年会費を納入すれば観察会に参加でき、会報「大和昆虫季」が送られます。

友の会の運営が軌道に乗り出した2005年6月、「特定非営利活動法人やまと自然と虫の会」が設立されました。館や友の会へのサポートは勿論、一般の方々に広く自然の大切さや面白さを伝え啓発することを目的としています。

将来に向けては、館の運営面でのサポートや友の会の行事のサポート等を中心に、環境省が実施している「大台ヶ原自然再生事業」への協力など、自然科学の啓蒙を通じ、自然の中で心豊かな暮らしの実現や生きものとふれあう、優しい人づくりを橿原市昆虫館と共に提供していきたいと考えています。



▲クイズに答えてザリガニを釣ろう(むし祭り)より

昆虫館へのメッセージ

虫いっぱい里山づくり隊 事務局 日比肇子

橿原市昆虫館が創立二十周年を迎えられたとのこと、心からお祝い申し上げます。

自然豊かな里山に洞窟をイメージした昆虫館の姿形は子ども達はもちろんのこと、大人達にも夢をあたえ来館者にはホッとすると感じるひとときを感じてもらったことでしょう。ここまでの道のりは喜びよりも苦労の方が多かったことと推察しますが、先輩諸氏の職員の皆様方の努力を無にすることなく、益々の発展を願うとともに、一人でも多くの方が来館してもらえることを期待しています。

虫いっぱい里山づくり隊がボランティア活動を始めてから四年の歳月が過ぎようとしています。二十名足らずからスタートして本年は四十二名の登録者となりました。常に参加して活動してくれるボランティアは約3分の1にとどまっているのが事務局の悩みですが、我々の目標である「虫いっぱい里山、子ども達が安心して遊べる里山、香久山周辺の自然を最大限に活かして人々の歓声がきける里山」を目指して毎月二～三回活動をしています。当初は雑草や木々が生い茂っていた裏山もこの三年間で見事にスッキリと伐採・整備が進み、平地から見上げると本当に里山らしく風通しも良くなったと実感しています。この現状にたどりつくまではボランティアの皆様の大変な尽力によるものです。夏は蚊をはじめとする虫にさされ汗をかきながらの作業、冬は寒さとたたかいながらのつらい作業を経て少しずつ夢の実現へと進んでいます。皆さんは手弁当で全くのボランティアですが夢は同じ「虫いっぱい里山づくり」のため、がんばっています。来春リニューアルされた時、ボランティアのための部屋を設置されると館長から伺い、とても楽しみです。県からの唯一の助成金も来年度が最終となり、事務局としては大変頭の痛い問題ですが、来館された人々が裏の広い里山で思いきり遊んで楽しんでくれる姿を想像しながら「虫



▲冬の里山観察より

いっぱい里山づくり隊」は歩んで参ります。

1989年オープニングセレモニー

開館前にタマムシ類の標本寄贈を受けた、タイ王国の王女をお迎えし、10月8日に盛大なるオープニングセレモニーを行いました。そして10月10日に開館しました。



- 1982年(昭和57年) 11月 ふるさと公園基本計画策定
1987年(昭和62年) 6月 橿原市昆虫館基本構想策定
8月 橿原市昆虫館新築工事基本設計
12月24日 建設工事着工
1989年(平成元年) 3月31日 竣工
7月1日 財団法人橿原市都市施設整備管理公社
管理運営委託業務開始
10月8日 橿原市昆虫館落成式典挙行・ガラヤニ・タイ王国
王女殿下御臨席
10月10日 開館
10月28日 第1回自然観察会 ※はじめての観察会
1990年(平成2年) 2月4日 入館者10万人達成セレモニー(開館後118日目)
6月17日 第1回昆虫セミナー ※はじめてのセミナー
7月17日～10月14日まで 第1回特別展「世界の蝶」開催
※はじめての特別展
8月12日 テレホンカード、ステッカーセット発売
※はじめてのグッズ販売
10月7日～11月23日までの日・祝日
一周年記念ビデオ上映会開催
10月23日 橿原市昆虫館運営委員会発足
11月2日 第1回 運営委員会開催 ※はじめての委員会
1991年(平成3年) 2月4日 蜜源植物栽培温室新築工事着工
3月12日～5月12日まで 第1回企画展「近畿のトンボ」開催
※はじめての企画展
3月30日 蜜源植物栽培温室竣工
3月31日 展示解説第1集「展示ガイドブック」発売
7月23日～10月13日まで 第2回特別展「ふるさとの昆虫～
見てみよう橿原市の自然」開催
9月26日 ハチドリ放鳥セレモニー(10種26羽)
1992年(平成4年) 2月4日～3月1日まで
第2回企画展「小さな親友、蝶～瀬尾昌一コレクション公開」開催
3月3日～4月5日まで
第3回企画展「身近なガの世界～松岡喜惣治コレクション公開」開催
8月4日～10月11日まで
第3回特別展「昆虫の求愛～昆虫ラブ・ストーリー」開催
11月25日 近畿建築士会協議会主催の第16回「hiroba」作品賞を受賞
1993年(平成5年) 3月23日～5月5日まで
第4回企画展「蝶の世界～小林康秀コレクション公開」開催
3月28日～31日まで
タイ王国学術交流と昆虫調査(～1997年まで毎年実施)
7月4日 光庭にミツバチ導入・巣箱設置
7月26日 放蝶温室換気設備増設工事完成
8月10日～10月11日まで
第4回特別展「フンを食べる虫～ウンコは生命の源～」開催
1994年(平成6年) 1月27日 石垣島開場竣工セレモニー
2月22日～4月24日まで
第5回企画展「空飛ぶ宝石～ハチドリの世界」開催

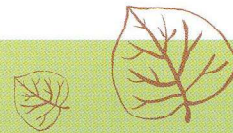


1991年放蝶温室の新しい仲間

この年は、放蝶温室へ主に中南米に約320種分布し、世界で一番小さな鳥「ハチドリ」を放鳥しました。ハチドリは、鳥類で唯一ホバリングができ、ガラス容器に入れた蜜を細長いクチバシで吸蜜します。

1994年南の島の栽培場

放蝶温室に飛んでいますオオゴマダラの故郷である、石垣市宇宮良に幼虫の食べる食草ホウライカガミなどの食草栽培施設「石垣島圃場」を設置しました。現在、食草を安定的に送られています。



昆虫館のあゆみ

1995年念願の2世誕生

温室にハチドリを放鳥し、4年目にして日本では初めてとなるアオミミハチドリ(アオミハチドリ)の繁殖に成功しました。ヒナは親鳥から口移しでエサをもらい、すくすくと成長し巣立ちました。



- 3月12日 ハチドリ購入
5月17日 アカヘリエンマゴモシの試験飼育とフンコロガシの生態展示
6月7日 ミツバチ観察巣箱設置
8月2日～10月10日まで
第5回特別展「昆虫のステキ発見～第1回作品コンクール～」開催
1995年(平成7年) 1月24日 アオミミハチドリ幼鳥2羽の孵化に成功
3月28日～5月21日まで 第6回特別展「虫と人の浪漫時代」開催
8月1日～10月1日まで 第7回特別展「温室内の生き物たち」開催
9月28日～29日まで 第6回全国昆虫施設連絡協議会を本市で開催
1996年(平成8年) 2月27日～4月7日まで
第6回企画展「空舞う妖精「蝶」～小佐々コレクション公開～」開催
8月6日～10月13日まで
第8回特別展「水辺のメリーゴーランド～虫たちの生命をのせて～」開催
1997年(平成9年) 3月4日～4月6日まで
第7回企画展「ネパールの昆虫～杉浦哲也コレクション公開～」開催
5月13日 入館者100万人達成セレモニー
(100万人目入館者：沖縄県浦添市の徳嶺さん)
8月5日～10月12日まで
第9回特別展「社会性昆虫～スズメバチ・アリたちの驚異の世界～」開催
1998年(平成10年) 3月10日～5月10日まで 第8回企画展「タイの人、自然、昆虫」開催
4月1日 橿原市昆虫館友の会発足
8月4日～10月11日まで
第10回特別展「擬態する昆虫～化ける！魅せる！その色・形の不思議～」開催
12月8日～2月14日まで
寄贈標本公開「日本のトンボ～谷村勇司コレクション～」開催
1999年(平成11年) 3月16日～5月16日まで 第9回企画展「昆虫化石」開催
8月3日～10月11日まで
第11回特別展「虫のあし～足がアレするコレもする～」開催
10月24日 友の会と共催「昆虫館秋祭り」開催 ※はじめてのむし祭り
11月2日～12月5日まで
10周年記念行事第2回作品コンクール「むし大好きコンテスト展」開催
2000年(平成12年) 3月22日～5月14日まで 第10回企画展「温室の生きものたち(II)」開催
4月25日 ミクロ探検隊公開
8月1日～10月9日まで
第12回特別展「南の森の物語～八重山の自然誌」開催
2001年(平成13年) 3月13日～5月13日まで
第11回企画展「花に舞い、木々に遊ぶ妖精「チョウ」～北村四郎世界のチョウ・コレクション」開催
4月28日 触れる展示コーナーの設置
7月31日～11月18日まで
第13回特別展「田んぼの虫たち、生きものたち」開催



1997年入館者100万人達成セレモニー

開館7年7か月目にして、延入館者数が100万人を達成しました。100万人目は、沖縄県浦添市からお越しの徳峰さんでした。

1998年橿原市昆虫館友の会設立

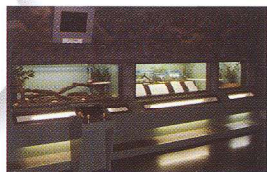
「昆虫好き・自然好き・子ども好き・昆虫館好き」な人たちが集まり橿原市昆虫館友の会が発足しました。



みと出来事

2000年ミクロ探検隊始動

生態展示室に新しく、超小型高性能カメラを操作し、実物の10倍もの大きさに映し出される虫たちをモニターで観察する「ミクロ探検隊」が始動しました。



8月28日～9月9日まで

博物館実習受入(1名) ※はじめての博物館実習

2002年(平成14年) 3月12日～10月14日まで

第13回企画展「世界を飛翔する美麗蝶たち」開催

5月14日～6月30日まで

特別企画「虫たちも応援! ワールドカップ」開催

8月6日～10月14日まで

第14回特別展「光り輝く昆虫たち～
輝く翅は、時を越える」開催

2003年(平成15年) 3月15日～5月11日まで

第14回企画展「ふるさとの化石・鉱物」開催

4月1日 榑原市教育委員会へ移管

7月5日～12月23日まで ふれあいルームを毎週土・日曜日に開催

12月19日 公立博物館に登録

2004年(平成16年) 3月16日～5月16日まで

第15回企画展「飛ぶことをやめた昆虫たち」開催

3月31日 榑原市昆虫館運営委員会解散

4月1日 榑原市昆虫館協議会発足

4月1日 虫いっばいの里山づくり実行委員会発足

4月1日 第15回協議会開催(協議会としてはじめて)

7月日～8月31日まで

「きんき昆虫館スタンプラリー～三つの昆虫館を巡って
シールをゲットしよう」開催 ※はじめてのラリー

7月24日～26日まで

「サマースクール」昆虫博士をめざそう! 前期開催
※はじめてのスクール

8月10日～10月24日まで 第15回特別展「毒虫・コワイイ虫」開催

8月21日～23日まで

「サマースクール」昆虫博士をめざそう! 後期開催

10月26日～12月26日まで

15周年記念企画第一弾「思い出いっばい、昆虫館!」開催

2005年(平成17年) 1月4日～2月13日まで

15周年記念企画第二弾「ひつつき“虫”とよばれる植物たち」開催

3月1日～3月12日まで

虫いっばいの里山づくりオープニングイベント「虫、人、自然～
ようこそ、里山へ!」プレ写真展「虫、人、里山へ!」開催

3月15日～5月15日まで

第16回企画展「チョウのはねの不思議～藤森信一
コレクション公開」開催

4月1日 (社)日本動物園水族館協会加入

7月1日～8月31日まで 「きんき昆虫館スタンプラリー2005」開催

7月1日 「虫いっばいの里山づくり隊」発足

8月5日～10月10日まで 第16回特別展「生命の森の昆虫たち」開催

8月26日 ハチドリ放鳥



2001年むし祭り開催

毎年6月初旬の日曜日に開催している「むし祭り」が館のイベントとして開始した年です。現在出展団体も30近く増え好評を得ています。

2003年博物館登録

管理公社から榑原市教育委員会の所属となり、県下で唯一の自然史系公立博物館として登録を行いました。



2005年虫いっばい里山づくり隊結成

昆虫館周辺の里山を昆虫のいっばいの雑木林に蘇らせ、子ども達が安全・安心して遊べる里山にしたいとボランティアグループが結成されました。



11月1日～12月4日まで

企画展示「ジュニア昆虫博物館展」開催

12月6日～1月29日まで

企画展示「寺川コレクション公開」開催

2006年(平成18年) 3月14日～5月7日まで

第17回企画展「昆虫vs.お魚 どっちがお好き?」開催

4月23日 「昆虫館一日館長」実施 ※はじめての一日館長

5月30日～6月25日まで 企画展示「昆虫vsアート」開催

7月1日～8月31日まで

「きんき昆虫館スタンプラリー2006」開催

8月12日～9月24日まで

第17回特別展「虫いっばい里山づくり」開催
第一弾「昆虫ワールド展」

9月26日～11月5日まで 第二弾「みんなの絵はがき展」

12月5日～1月28日まで

企画展示「伊藤コレクション公開」開催

2007年(平成19年) 3月20日～5月13日まで 第18回企画展「ハチドリの世界」開催

5月15日～7月31日まで

第19回企画展「蝶の世界～森本コレクション公開」
4期に分けて開催

7月1日～9月2日まで

「きんき昆虫館3館連携企画2007ムシと関西
～3つの昆虫館シールラリー」開催

8月1日～10月21日まで

第18回特別展「バッタ・コオロギ・キリギリス」開催

2008年(平成20年) 3月11日～5月18日まで 第20回企画展「大台ヶ原の自然」開催

6月4日～12月27日まで

2008ムシと関西「3つの昆虫館スタンプラリー」
～きんき昆虫館3館連携企画～開催

8月1日～10月13日まで

第19回特別展「街の昆虫学者・芝田太一展
～君も新種を見つけてみないか～」開催

2009年(平成21年) 3月17日～5月17日まで

第21回企画展「ミツバチの不思議」展開催

6月4日～9月30日まで

きんき昆虫館3館企画「昆虫館スタンプラリー2009」開催

7月7日～9月6日まで

昆虫館20周年記念第20回特別展「大地の申し子～
土壌生物展」開催

9月15日～11月15日まで

昆虫館20周年記念第22回企画展「昆虫館のあゆみ&
作品展～みんなのメッセージ」展開催

11月17日～11月29日まで

昆虫館20周年記念特別企画
「バッタ・コオロギ・キリギリス」展開催



2008年タイプ標本コレクションの寄託

この年に大阪の甲虫研究家芝田太一さんが収集された貴重なタイプ標本含むコレクションの寄託を受けました。それをもとに、夏に芝田太一さんをテーマにした特別展も開催しました。

2009年開館20周年記念

開館20周年を記念し、むし祭りや特別展、企画展など盛大に記念行事を行いました。「昆虫館のあゆみ&作品展」では、皆さんに10年後へのメッセージをしたためていただきタイムカプセルを埋めました。



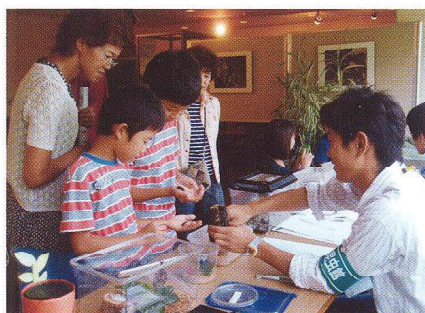


昆虫館は今年二十歳を迎えました。今までの道のりはいつも、昆虫館友の会やNPOやまと自然と虫の会、虫いっぱいの里山づくり隊(ボランティア)を始め、昆虫館を応援して下さる方と一緒にでした。また、関西のみならず全国の昆虫館や博物館、動物園、水族館等のご支援で、今日まで無事に歩むことが出来ました。心から感謝申し上げますと共に、今後一層のご指導ご協力をお願いします。私自身、人生のほぼ半分を昆虫館と共に歩んできました。まだまだ未熟で反省することばかりですが、今冬からのリニューアルを前に初心に戻り、新生・橿原市昆虫館の誕生に向けて頑張りたいと思います。

係長 日比 伸子



▲夏の虫観察会



▲ふれあいルーム

子ども達が小川で遊び、雑木林でカブトムシを捕まえる。そんな姿は、遠い昔のように思います。

人は傲慢になり、我が物顔に歩き回ります。

生物多様性や自然再生という言葉が使われだし、20年近くなるでしょう。ようやく自然の逆襲に気づいた私達は、周りの光景をみることができるようになってきたのかもしれない。

これからの自然史博物館の使命は、人間と自然の共生を提示しなければなりません。生命の営みをフィルターとして、私達の生き方を語りかける場所だと思います。

静かに21年目の一步を踏み出します。情熱と使命感に打ち震える一步を。

指導主事 松本 清二

昆虫館が開館して20年が経ちました。これも皆様のご支援・ご協力のおかげと感謝しております。自然が失われて無くなりつつある現代で、自然と親しむ機会の少なくなりつつ子ども達、当館の役割はこういう問題に取り組み、自然環境教育のできる場所を提供していくことだと考えております。

20周年という節目に今後、館で放蝶している蝶や植物などの展示の充実を図り、イベントも趣向を凝らし、皆様方に喜んでいただけるように取り組んでいきたいと思っています。

今後とも橿原市昆虫館をよろしくお願い申し上げます。

松村 忠志

昆虫館のこれまでのオオゴマダラの一生に例えると、1989年10月10日の開館日が卵から孵ったばかりの幼虫でした。幼虫は、少しずつですが成長し、2、3、4、終令幼虫と脱皮し、現在は小振りですが黄金色の蛹になりました。

そして、リニューアルオープン時には成虫に羽化し、大きな翅で新たな旅に旅立つ思いがします。旅立ったオオゴマダラはたくさんの卵を産み、それが昆虫好きの皆さんであり、未来の昆虫博士かも知れません。そんなきっかけになる様な昆虫館であり、今以上に地域での博物館としての役割を果たしていける昆虫館でありたいと思います。

久米 智

オープンから早20年。あっという間だったような気がします。自身も含め、昆虫館の周りではいろんなものが変わりました。

中でも気になるのは、身近な生物たちの変化です。

ナガサキアゲハをはじめ、ムラサキツバメ、シジミ、クマゼミ、ヒロバネカントン、セアカゴケグモ等々、オープン当初には館の周囲では全く見られなかった虫たちが、今ではごく普通に見られるようになりました。

この先どうなるのかたいへん不安ですが、このような変化の記録を残していくのも昆虫館の責務です。

館長補佐 木村 史明

昆虫館がオープンして、早いもので20年という歳月が経過しました。この20年の間で昆虫や植物のことをたくさん学びました。その甲斐あって、昆虫や植物のことに以前より興味を持つようになり、好きになりました。

来春、檜原市昆虫館はリニューアルオープンします。昆虫や生命、自然環境について学ぶためにも新しく生まれ変わった檜原市昆虫



館をどんどん利用して下さい。自分自身も初心にかえり、新たな気持ちで頑張ります！

島田 正吾

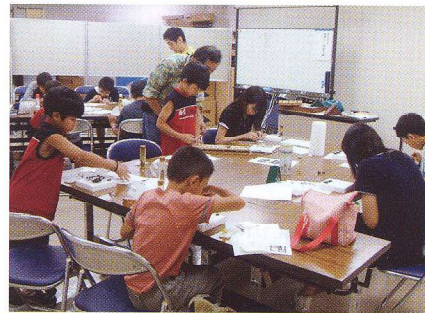
昆虫館が開館して早20年、気付けばずいぶんと時が過ぎたものです。といっても昆虫館ができたころ、私はまだ小学生でした。私は生まれも育ちも檜原市ですので、20年前、何やら檜原市にすごい施設ができたらしいというわさが聞こえてきて、担任の先生に引率してもらってクラスの人々と昆虫館に来たことを覚えています。その時はまさか将来この施設で働くことになるなどとは夢にも思っていないままでしたが、当時の私のような子どもたちや、もちろん大人の方々にも来て良かったなと思ってもらえるような昆虫館となるよう、今後がんばって行きたいと思います。

辻本 始

四季折々の自然を感じ、香久山公園内に竹む昆虫館は今年で20周年を迎えました。今回「子どもの目線にあった“五感で感じる昆虫館”」をテーマに、リニューアル工事を行うため、暫くの間休館となりますが、どんな変貌を遂げるか期待でワクワクしています。

自然を感じながら遊ぶ子どもが少なくなり、ムシに触ることの出来ない子どももいるなか、昆虫館の果たす役割は大きいものがあります。昆虫との触れあいを通し、自然環境の学習できる場として、一人でも多くの子どもに来て欲しいと思いながら、リニューアルオープン後に思いを馳せています。

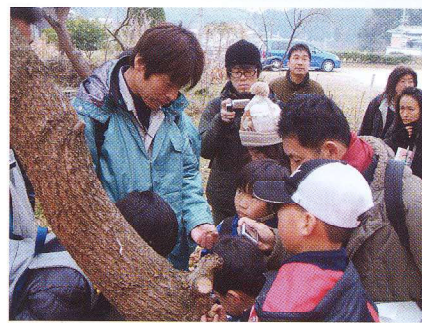
館長補佐 森川 千鶴子



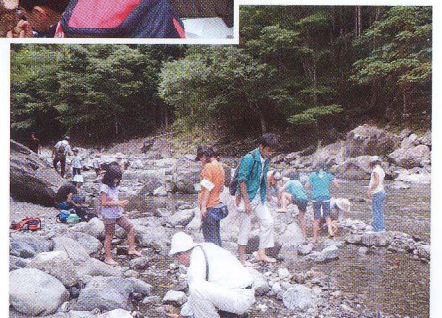
▲サマースクール



▲植物を育てよう



▲冬の虫観察会



▲土壌動物ミステリーツアー

はたち こんちゅうかん あたら 二十歳になった昆虫館が新しくなります！

この10月に20歳を迎えた橿原市昆虫館は、さらなるステップアップを目指して、リニューアルします。

「来館者に感動と驚きを与える博物館」、「教育・学習施設として創造する博物館」、「環境に調和する博物館」を基本コンセプトに、大きく分けて3つの改修を行います。

1. 常設展示の刷新と生態展示の増設
2. 映像鑑賞や実験ができる研修室の新設
3. 雨天時の遠足など団体の食事スペースの拡大

具体的には、第1、第2展示室を子供目線に立った明るく親しみ易い展示に全面的に改修するとともに、新築棟に新たな生態展示や、職員やボランティアスタッフが直接来館者と向き合えるコーナーを設けます。

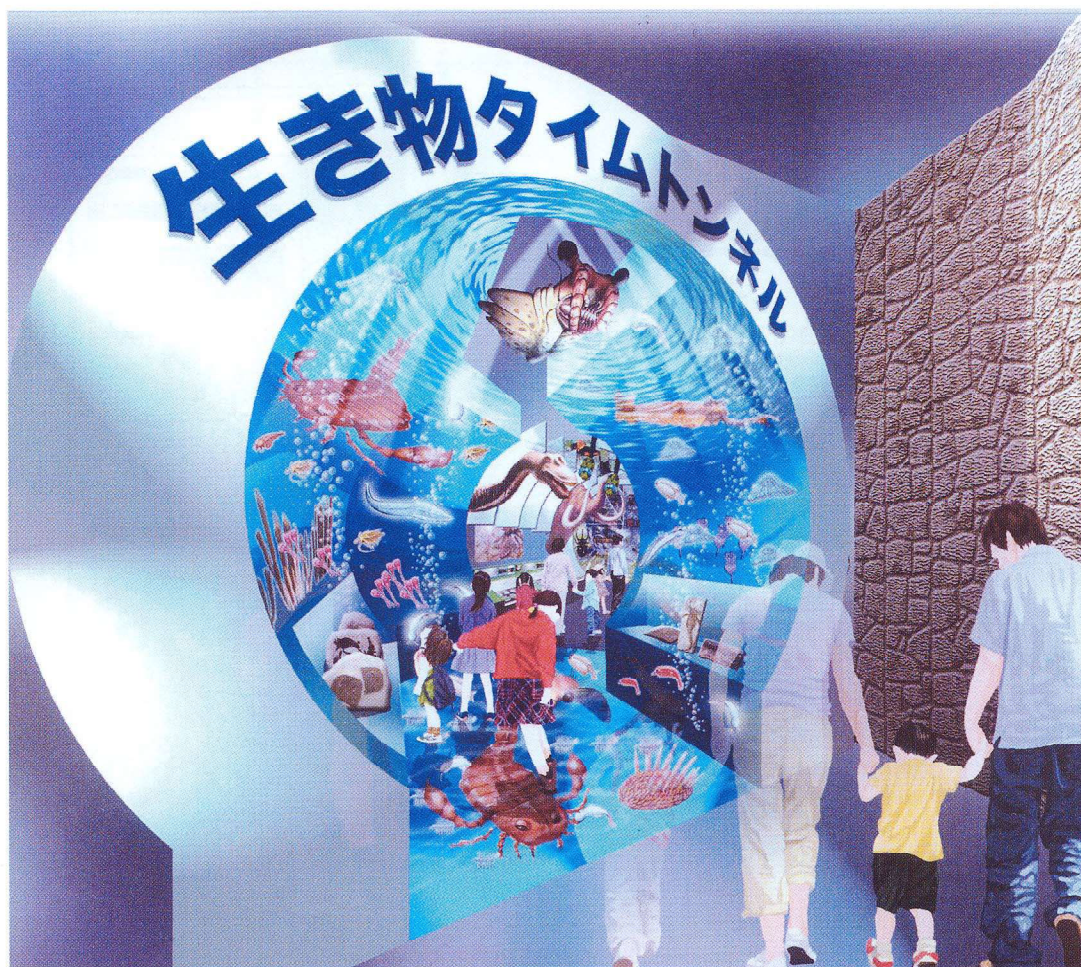
また、大型スクリーンにて映像がご覧いただける研修室を本館に、実験などができる研修室を新築棟に新しく設けます。

さらに、入口前のエントランススペースに屋根をかけ、食事ができる広場として提供します。

その他、授乳・救護スペースの充実など来館者へのサービスの向上や、標本等の資料収蔵スペースの拡充なども併せて図ります。

これらのリニューアル工事のため、昆虫館は平成21年12月1日から平成22年5月頃まで休館させていただくことになりました。

来春、生まれ変わる昆虫館にどうぞ御期待ください。
館長補佐 木村 史明



▲新しい展示のイメージ

橿原市昆虫館だより GONTA Vol.19 No.3 2009年(平成21年)11月25日発行 (通巻75号)

編集・発行／橿原市昆虫館 〒634-0024 奈良県橿原市南山町624番地
tel.0744-24-7246 fax.0744-24-9128

<http://www.city.kashihara.nara.jp/insect/> 印刷・製本／株式会社アイプリコム

